

溝辺会長の挨拶

本岡学長の御祝辞

原常務理事の御祝辞

都丸日本技術士会会長の御祝辞

日本技術士会より書籍・資料の贈呈

設立総会の報告

学内研究成果の見学

懇親交流会の報告

会員の広場

事務局だより



設立総会終了後、出席者一同で記念写真（津田沼キャンパス7号館前）

溝 辺 会 長 の 挨拶



この度、千葉工業大学技術士会長をおおせつかりました溝辺でございます。宜しくご指導のほどお願い申し上げます。千葉工業大学技術士会の設立総会は、千葉工業大学から本岡学長が、また日本技術士会からは都丸会長にご臨席いただき、温かいご支援ご協力の言葉をいただき大変心強く思っています。また技術士会の設立にあたっては、計画当初から本岡学長と南教授そして、芹川同窓会副会長には温かいご指導ご協力頂きましたことを心より感謝申し上げます。

千葉工業大学技術士会の会員約100名の方に設立の趣旨にご賛同いただきましたが、時間的な制限や個人情報保護法等の規制により、全ての卒業生の技術士、技術士補の有資格者の把握には困難を極めました。しかし、日本技術士会、千葉工業大学や同窓会のご協力を得てようやく今日の設立総会を迎えることが出来ました。いまだに、確認出来ていない、技術士、技術士補の有資格者は、多くいらっしゃると思いますが、皆様方のお力を借りて会員の増員に努めることが今後の大きな課題と思います。

本岡学長が2005年の年頭にあたり、千葉工業大学のこれからの在り方について、二つの大学の教育目標を示されました。

その一つは、短期的には基礎教育の徹底と教養教育の見直し。

二つ目は、中長期的観点から、大学の評価にもつながる、「日本技術者教育認定機構」(JABEE)の認定取得に全学挙げて取り組み、そして、基礎的な技術(FE)を高めると共に、実務的な資格である技術士補、技術士に果敢に挑戦する大学、大学院の教育環境基盤作りを目標に掲げられておられます。

よって、千葉工業大学技術士会の活動方針は、大学の教育目標や経営方針に沿った活動を基本的に考えております。

一つ目は、卒業生、学生、大学院生の技術士、技術士補の資格取得に支援します。

二つ目は、大学の研究成果の事業化に向けての協力、支援します。

三つ目は、大学内にある産官学連携による技術・情報振興会の活動に協力、支援して行きます。

千葉工業大学技術士会は今日、ようやく発足したばかりの小さな技術士会ですが、会員一丸となって千葉工業大学、強いては日本技術士会の発展のために努力していく所存であります、宜しくご支援、ご指導のほどお願い申し上げます。

最後に、千葉工業大学技術士会設立に多大なご支援とご協力いただきました、日本技術士会千葉工業大学の皆様には厚く御礼申し上げますとともに、設立の趣旨にご賛同頂きました会員の皆様方のご健勝と今後の、益々の発展を心から祈念致しまして挨拶と致します。

千葉工業大学技術士会会長 溝辺 哲男

本 岡 学 長 の 御 祝 辞



千葉工業大学技術士会の設立に当たり、心から御祝い申し上げます。

昨年、私は学長に就任しましたが、大学を取り巻く環境は急激かつ大幅に変化していることを実感しております。そこで教職員には本学の「建学の精神」と「教育目標」を再認識して欲しいと考え、今年新年の挨拶で大学改革の意義について話をしました。

本学の建学の精神に「師弟同行」と「自学自律」があります。「師弟同行」とは先生と学生が一体となって物事を進めていくことであります。「自学自律」とは創造性豊かな人材の育成です。

本学の教育目標は、工業大学だから科学技術の厳しい変化に対応できるしっかりした基礎学力を持つ人材の育成だと考えております。そこで、大学の建学の精神と教育目標とをしっかりと認識して、新たな技術者の育成を目指しております。

そこで教育面における短期的な施策の一つは、基礎教育を徹底し学生全体の基礎学力を一定レベルに保つことで、本学の評価が高まることを期待しております。中長期の施策としては、第三者評価と結びつけJABEEの認定が取れる大学にしていくため、全学挙げて取り組む考えであります。さらにもう一つ、大学が社会的に評価されるために重要な大学の格付けとしてCOE、特色GP、現代GPがあります。今年度、本学は特色GP、現代GP共に採用され、対外的に大いに評価されるものと考えております。

このように21世紀に通用する本学の独自教育への変革は緒についたところですが、大学の使命は何といっても教育・研究と社会貢献であります。社会貢献としては、大学の研究シーズを地域社会に還元し、社会が要求する課題解決への手助けをし、さらに企業との共同研究、受託研究、知財管理や技術移転（TLO）等を支援すると共に本学と地域の皆様との連携・融合を深めるべく、この10月には「産官学融合センター」の設立を進めているところであります。

この度、本学の変革の流れに呼応するかのように、本学卒業生の技術士が集まり千葉工業大学技術士会が設立されたことは大変喜ばしい限りであります。100有余名の技術士は、それぞれ専門技術、科学技術に関する高度な応用技術を有し各界で活躍されておりますが、まさに本学の財産であり、宝でもあると思っております。

そのことから千葉工業大学技術士会の設立は誠に意義深いものであり、本学の研究成果の事業化やTLOを可能にするコーディネーターとして、本学の活性化に繋げていただけるよう今後のご活躍に期待しております。

千葉工業大学技術士会が今後益々発展しますよう祈念しまして祝辞とさせていただきます。

千葉工業大学学長 本岡 誠一

原 常 務 理 事 の 御 祝 辞



『工大・技術士会発足を祝う』

この度、千葉工業大学技術士会が創設され、衷心よりお慶び申し上げます。聞き及ぶところ、数ある大学の中で第八番目の創立とか、関係者の方々の慧眼とお骨折りに敬意を表します。

偕^まて、日本は戦後六十年、ジャパン・アズNo.1と言われた時代を過ぎ、今日いささか峠を降下しつつあると感じるのは私だけでしょうか？ 小中学校で教育現場の乱れが報じられ、街にはフリーター／ニート族がふえ、公共機関ですら裏金づくりが行われる理性も倫理観も薄い時代にガッカリ。然し乍ら、一方ではNHK番組「プロジェクトX」では、技術屋のネバリに裏打ちされた日本の技術力の底力を見ることが出来、うれしい気になることができます。

「工学技術」は、地球を、そして人類の福祉のためのものであり、政府も「産業創成・技術立国」を唱えはじめました。このような時にあたり、千葉工業大学卒業生による技術士会が発足したことは、まことに時宜を得たものといえます。

私達、工業人は、世界の動向に気をくばり、広く知識を吸収し、人格の陶冶を心がけ、人類福祉向上の一翼をにないたいものです。大学も、技術士会員の先輩が打ち建てた輝かしい業績を見て、更にこれを向上させる有偉な人材を育てる努力をおこたりません。

最後に、もう一度創設のお祝いを申述べ、会員諸志のご健康とご活躍を祈ってやみません。

学校法人 千葉工業大学常務理事 原 勇記

都丸日本技術士会会長の御祝辞

千葉工業大学技術士会の発足、心から御祝い申し上げます。

私は、この6月に社団法人日本技術士会の第17代会長に選任されました。早速、技術士のステータスをさらにあげ、また日本技術士会の拡大、発展をめざして、他の役員ともども活動を開始したところでありますが、本日千葉工業大学で技術士会を発足していただいたことは、誠に幸先のいいニュースであります。学長をはじめ、発足に関わられた皆様のご努力に心から敬意を表する次第であります。

大学の現役やOBの技術士が集う技術士会は、昭和の時代に発足した東京工業大学の蔵前技術士会、東北大学の青葉技術士会、日本大学の桜門技術士会、早稲田大学の稲門技術士会に続きまして、ここ1～2年に武蔵工業大学、東京理科大学、中央大学で技術士会が組織され、千葉工業大学は8番目と聞いております。それぞれの技術士会は、後輩の指導や、技術士どうしの交流等を通して技術士制度の普及、活用、さらには一層のステータスアップの活動をされています。日本技術士会の組織の一つというわけではありませんが、目指すところは同じであります。

私は会長就任以来、技術士は「技術士法」という法律に定められた国家資格であり、また、日本技術士会もその法律に使命、役割を規定された格式の高い公益法人でありますので、まずこのことを念頭において、様々な活動をしていこうと呼びかけています。

平成12年の「技術士法」の改正で日本の技術士は世界に対してもプロフェッショナルエンジニアとして通用するものとなりました。また技術と社会との関係をつなぐ役割、科学技術を先導する役割を技術士が担うべきとのことから、公益確保 これは技術者倫理の遵守ともおきかえられますが、に務めること、継続的に自己研鑽を積むことが法律で責務とされました。日本技術士会は会員のみでなく、全部の技術士の自己研鑽を監理するとも明記されました。この法律の主旨を敷衍していくことが、それぞれの技術士や日本技術士会にとっての仕事であります。昨年には日本技術士会で「技術士ビジョン21」をつくり、技術士は科学技術創造立国の実現を目指し、社会の利益と環境の保全に貢献すると宣言しました。このビジョンの実現のためには、さらに技術士のすその拡大、日本技術士会自体がさらに大きくなることが重要であり、会員の総力をあげて取り組んでいくこととしています。

千葉工業大学の教育理念として「ひとのための技術、環境を守る工学」が掲げられています。千葉工業大学技術士会もこの教育理念の実現の一翼を担われるものと思いますが、技術士のステータスをあげ、技術士がさらに社会に貢献できるようにしていこうとの共通の目標に対しましてはわたくしども日本技術士会と連携、協力して活動していただければ誠に幸いです。

千葉工業大学と千葉工業大学技術士会の更なるご発展を祈念しまして祝辞とさせていただきます。

本日は本当におめでとうございます。

日本技術士会より書籍・資料の贈呈

設立総会に先立ち、社団法人日本技術士会より千葉工業大学に書籍・資料の贈呈が行なわれました。

贈呈式は学長室で、設立準備委員会の溝辺委員長、粕谷委員の立会いのもと、日本技術士会の竹下専務理事から本岡学長に以下の書籍・資料の目録が手渡され、今後本学学生と大学院生に対する技術士制度の理解と技術士試験受験への啓蒙が一層すすむものと期待されます。

<寄贈図書> 　　いずれも日本技術士会編　　　丸善出版

- ・ 科学技術者の倫理　その考え方と事例
- ・ 科学技術者倫理の事例と考察
- ・ 環境と科学技術者の倫理
- ・ 大学講義　技術者の倫理　入門
- ・ 説明責任・内部告発
- ・ 内部告発
- ・ リスク分析工学
- ・ ナノテクビジネス指南

<資料>

- | | | |
|------------------------|-------|-----|
| ・ 技術士法 | ----- | 3部 |
| ・ 定款・細則 | ----- | 各3部 |
| ・ 技術士制度について | ----- | 20部 |
| ・ 技術士試験　受験のすすめ | ----- | 20部 |
| ・ 修習技術者として技術士をめざせ | ---- | 10部 |
| ・ 技術士CPD | ----- | 5部 |
| ・ 事業概要 | ----- | 5部 |
| ・ 技術士ビジョン21 | ----- | 5部 |
| ・ 日本の技術者教育認定制度（JABEE版） | --- | 3部 |
| ・ 入会申込書 | ----- | 10部 |



竹下専務理事より本岡学長へ目録が手渡される（学長室）

設 立 総 会 の 報 告

千葉工業大学技術士会の設立総会が下記のとおり開催されました。総会の模様については報告を兼ねて議事録を掲載します。

日 時：平成 17 年 9 月 16 日（金） 16 時 00 分～16 時 55 分
場 所：千葉工業大学津田沼キャンパス 7 号館 7402 教室
出 席：来賓 千葉工業大学 学長 本岡 誠一殿
日本技術士会 会長 都丸 徳治殿
千葉工業大学 技術・情報センター運営委員長 南 和一郎殿
会員 出席者 33 名、委任状提出者 34 名

配布資料：資料 1 設立総会式次第
資料 2 設立趣意書
資料 3 技術士会会則（案）
資料 4 暫定活動計画書（案）
資料 5 平成 17 年度予算書（案）
その他 千葉工業大学技術士会 会員名簿
千葉工業大学技術士会 会員状況

議事内容

1. 開会宣言

司会者の黒澤伸好君（金属工研 S47 年）から開会宣言が行われた。

2. 千葉工業大学技術士会 設立準備委員長挨拶

設立準備委員長の溝辺哲男君（電気 S36 年）から、総会出席会員への御礼、来賓への謝辞があった。

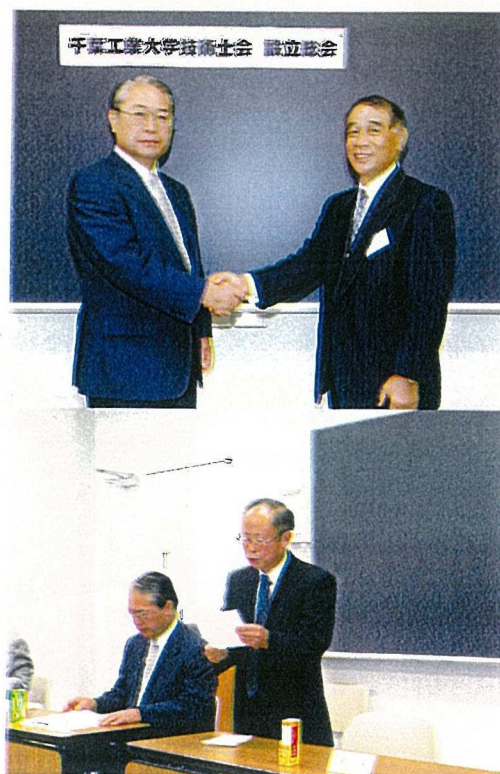
3. 千葉工業大学 学長挨拶

本岡学長より、大学の現況、教育方針および 10 月に発足する新しい産官学融合センター構想について話があり、産官学連携を進めていく上で技術士会発足への期待を述べた。

4. 日本技術士会 会長挨拶

都丸会長より、国内主要大学では 8 番目となる技術士会設立について祝辞があった。

（竹下専務理事が代読）



5. 経過報告及び発起人の紹介

溝辺準備委員長より、技術士会設立の経過について報告があり、発起人として準備委員長を含め以下の7名の紹介があった。

設立準備委員会 委員長 溝辺哲男（電気 S36 年）

委員 中島 浩（電気 S32 年）、粕谷太郎（土木 S43 年）

黒澤伸好（金属工研 S47 年）久多羅木吉治（土木 S46 年）

南澤 守（電気 S50 年）、町田文男（土木 S50 年）

6. 千葉工業大学技術士会設立趣意書

準備委員会事務局の南澤 守君より、設立趣意書について説明があった。

7. 議長の選出及び議事録署名人の選出

議長選出にあたり、立候補者を募ったところ溝辺委員長が適任との意見があり審議の結果、異議がなく溝辺哲男君が議長に選出された。

次に議事録署名人の選出にうつり、立候補者を募ったところ事務局一任となり、小澤満三君（土木 S43 年）と和気輝幸君（土木 S46 年）が選出された。



8. 議事

第1号議案 総会成立の確認

準備委員会事務局の南澤 守君より、出席者数 33 名、委任状提出者数 34 名、会員数 91 名との発表があり、設立総会の成立が確認された。

第2号議案 千葉工業大学技術士会会則

準備委員の久多羅木吉治君より、会則についての説明があり審議の結果、異議がなく承認された。

第3号議案 千葉工業大学技術士会会長及び役員選出

会長選出にあたり、立候補者を募ったところ溝辺委員長が適任との意見があり審議の結果、異議がなく溝辺哲男君が会長に選出された。

次に役員の選出にうつり、立候補者を募ったところ会長一任となり、会長提示の役員案について審議した結果、異議がなく以下の役員が承認された。

千葉工業大学技術士会 役員

最高顧問	学長 本岡 誠一	(電子 S38 年)
顧問	教授 南 和一郎	(機械 S38 年)
	同窓会副会長 芹川 兵衛	(機械 S42 年)
会 長	溝辺 哲男	(電気 S36 年)
副 会 長	粕谷 太郎	(土木 S43 年)
理 事	久多羅木吉治	(土木 S46 年)
	黒澤 伸好	(金属工研 S47 年)
	南澤 守	(電気 S50 年)
	町田 文男	(土木 S50 年)
監 事	中島 浩	(電気 S32 年)
事務局長	南澤 守	
副事務局長	黒澤 伸好	

第 4 号議案 役員紹介と設立宣言

選出された役員全員の略歴が溝辺会長より発表された。

引続き、技術士会の設立宣言が町田文男君よりあり、本日をもって千葉工業大学技術士会は正式に設立することを全員一致で確認した。

第 5 号議案 暫定活動計画書 (案)

事務局より、平成 17 年度の暫定活動計画について説明があり審議の結果、異議がなく承認された。

第 6 号議案 暫定予算書 (案)

事務局より、平成 17 年度の暫定予算について説明があり審議の結果、異議がなく承認された。

その他

意見、質問もなく設立総会の議案の審議は全て終了した。

9. 閉会宣言

粕谷副会長より閉会宣言があり、設立総会は終了した。

議事録署名人

小澤満三 (土木 S43 年) 印

和気輝幸 (土木 S46 年) 印

役員顔ぶれ



後列左より
久多羅木、南澤、町田、
黒澤

前列左より
中島、溝辺、粕谷、南

千葉工業大学技術士会 会員状況

(平成 17 年 9 月 16 日現在)

住所(連絡先)

20	20	13	10	8	6	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	91 名
千葉	東京 23区	神奈 川	北海 道	東京 都下	埼玉	福島	大阪	佐賀	秋田	宮城	栃木	山梨	長野	静岡	兵庫	福岡	計

卒業学科

49	15	10	5	3	3	3	1	1	1	91 名
土木	電気	機械	建築	電子	工業 化学	金属	工業 経営	精密 機械	工業 デザイン	計

登録部門

49	8	10	1	11	4	3	1	1	1	1	1	91 名
建設	建設 総合	電気 電子	電気 電子 総合	機械	経営	金属	衛生 総合	水道	化学	航空 宇宙	環境	計

学 内 研 究 成 果 の 見 学

総会終了後、南 和一郎教授のご案内で 8 号館の「鯨生態観測衛星プロジェクト」と「音響情報フロンティアセンター」の見学を行いました。予定した時間を大幅にオーバーして学内の研究成果を熱心に見学されていました。

見学会「鯨生態観測衛星プロジェクト」

8 号館 3 階の鯨生態観測衛星管制センターにおいて、現在周回している「観太くん」と同じ衛星を観ながらシステム、構造、機器構成、機能等と鯨に取り付けるプローブの説明が行われた。また、追跡・管制室ではデータのモニタ項目、コマンド項目及び現在の「観太くん」の動作状況の説明が行われた。



鯨生態観測衛星プロジェクトの見学（津田沼キャンパス 8 号館）

見学会「音響情報フロンティアセンター」

8 号館 4 階において、文部科学省・学術フロンティア研究プロジェクトの「快適音環境の創生」を見学した。本プロジェクトは居住環境における音響的快適性の向上と音響情報伝達の高精度化などを目的に、平成 17 年度から 5 ヶ年にわたり研究を行っており、研究施設についての説明が行われた。



音響情報フロンティアセンターの見学（津田沼キャンパス 8 号館）

懇親交流会の報告

学内研究成果の見学のあと、8号館地下の職員食堂においてご招待者、会員を交えての懇親交流会が開催されました。司会は黒澤伸好君がつとめ、会長の挨拶に続き、本学の原常務理事と日本技術士会の竹下専務理事よりご祝辞をいただき、乾杯のあと暫し懇談となり、懐かしい先生との話が弾んだり、先輩・後輩との近況のやりとりなどで予定の時間を大幅にオーバーして無事お開きとなりました。

〔ご招待者〕

- 本岡 誠一 様 (千葉工業大学学長)
- 原 勇記 様 (千葉工業大学常務理事)
- 竹下 功 様 (日本技術士会専務理事)
- 芹川 兵衛 様 (千葉工業大学事務局長・同窓会副会長)
- 茂木 徹一 様 (〃 工学部 学部長)
- 三井田 惇郎 様 (〃 情報科学部 学部長)
- 南 和一郎 様 (〃 技術・情報センター運営委員長、工学部 機械サイエンス学科教授)
- 小林 正紀 様 (〃 技術・情報センター企画委員、工学部 電気電子情報工学科教授)
- 平間 正男 様 (〃 学務部長)

〔ご祝電〕

- 奥田 實 様 (千葉工業大学同窓会会長)
- 千葉県技術士会 様
- 武蔵工業大学柏門技術士会 様

1. 挨拶

溝辺会長より、設立総会が無事終了した旨の報告、ご来賓の方々への御礼の言葉、今後の活動方針等について挨拶がありました。

《要旨》

千葉工業大学技術士会の活動方針は、千葉工業大学の教育目標に沿った活動を基本的に考えております。

一つは、卒業生、学生、大学院生の技術士、技術士補の資格取得に支援します。

二つ目は、大学の研究成果の事業化に向けての協力支援。

三つめは、千葉工業大内にある産官学連携による技術・情報振興会の活動に協力、支援して行きます。

千葉工業大学技術士会は今日ようやく発足したばかりの小さな技術士会ですが、会員一丸となって千葉工業大学、強いては、日本技術士会の発展のために努力していく所存ですので宜しくご支援、ご指導のほど宜しくお願い申し上げますとともに、技術士会設立に対して多大なご支援とご協力いただいた、千葉工業大学、日本技術士会に厚く御礼申し上げます。



2. 御祝辞、祝電披露

千葉工業大学常務理事の原 勇記様よりの御祝辞、日本技術士会専務理事の竹下 功様より御祝辞をいただきました。つづいて祝電が披露されました。



3. 乾杯

乾杯の音頭は役員の中島 浩監事の発声により、千葉工業大学技術士会の設立の証として、来賓、会員の皆さんが声高らかに唱和しました。



4. 懇談

食堂内の(株)シー・アイ・ティ・サービスが用意した料理、各種お酒はめいめいの輪の中に吸い込まれ、あちらこちらで名刺交換や情報交換などで暫し懇談が行なわれました。



5. 中締め

粕谷副会長より中締めの挨拶があり、三々五々会場を後にしました。

設立準備で大変だった長い日々の苦勞と充実感を味わいながら、設立総会が無事終了しました。



会 員 の 広 場

～ Technology pioneer ～

「ビール樽 脅威のアイアニングマシーン」

金属部門、金属(修士)47年卒

黒澤 伸好

株式会社アイ・ピー・ビー (IPB) が刊行している特許四季報は、知的財産戦略経営分析を主体にし、業種別・企業別ランキングや、IPB スタッフによる論文などが発表されている。今年7月に発行した第3号に、筆者(黒澤)の技術体験をアナリストレポートとして掲載しているので紹介する。

話は既に一世代前(昭和52)のビール樽開発に関わった開発マン達の「話」である。当事のビール業界のシェアは麒麟ビール63%、サッポロビール19%、アサヒ12%、サントリー6%で麒麟ビールの独壇場であった。そんな時に筆者の勤務先であった「日本軽金属」へアサヒビールからこんな話があった。

「生ビール用5リッターアルミ缶ワンウエー容器(非回収容器)と、その注ぎ出しシステム」の開発依頼である。しかも、容器の価格はリッターあたり100円以下、量産化までの期間は約8ヶ月、初年度販売量は最低30万缶、との条件つきであった。ビール容器は炭酸ガスのため内圧が高い。もし、輸送中に40℃にもなれば4kg/cm²にもなる(今、冷蔵輸送が進み、40℃になることはない)。当時すでに一般化していたビール缶(これもアサヒビールが国内で最初に販売)はあったが、350cc缶が主体で、5リットル缶など及びも付かないことであった。

筆者の役割は素材屋であったため、要望にこたえる素材を提供するのが主務ではあったが、日軽金に作られた開発チームへ参画し、形状設計から加工方法まで関わらせていただいた。

5リットル缶は価格の点で無理であったが、7リットル缶で成功した。加工方法は絞り加工である。直径205φ、高さ277mmの巨大アルミ缶である。ビール缶は充填装置を通過して梱包されるまでラインに立っていなければならない。内圧は底を丸く張り出せば難なくクリアできるが、平らでも、小型缶ビールのように凹でいても、こんな太い缶が内圧に耐えるはずがない。

当時、省エネ鍋として話題をまいた圧力鍋の板厚は3mmで、そんなに厚くても価格条件をクリアできない。開発チーム発足後、約1ヶ月でチームの殆どに諦めムードが漂いだした時、瓢箪から駒のグッドアイデアが出現した。現在、ビール樽が存在するのはこの「駒」のお陰である。

図-1は開発に成功した7リットル缶の形状である。丸い底に更に丸い出っ張りですを作っている。丸底が高耐圧に耐えるのは技術屋の常識である。まさか丸の中に丸をつくるとは!

その後、ビール樽は時代の要請で小型化が行われ、3リットル缶へと変遷し、更に、材料削減のため、本稿の副題でもある「脅威のD/Iマシーン」の開発へと進んでいった。図-2は現在でも生きながらえている、D/I加工によるビール樽達である(比較のため500cc缶も入れた)。加工工場は日軽金新潟工場で、今でも、「驚異的D/Iマシーン」の雄姿は衰えを見せていない。

本書には開発のきっかけとなった逸話からビール樽の現況、更に、缶回収活動まで長々と述べている。開発を成功させる「こつ」みたいな物が伝わればいいな、と願いつつ・・・。

著書名：特許四季報 創刊3号（発行所：株式会社アイ・ピー・ビー、発行人：増山博昭）¹⁾

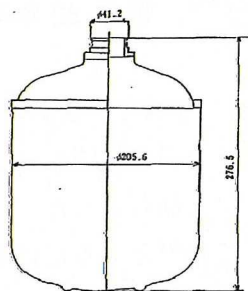


図-1 7ℓビール樽²⁾



図-2 現在のビール樽³⁾

1) <http://www.ipb.co.jp/>

2) 日本軽金属(株)提供

3) 撮影／三浦健司

～ 会員の著書紹介 ～

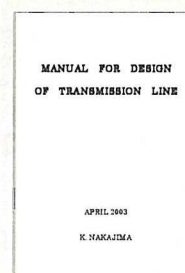
書名：送電線設計マニュアル

著者：中島 浩

出版社：自費

価格：会員に特別価格で頒布 150頁

発行：2003年4月



現役中に要望に応じて作成したマニュアルを退職後アップデートしたものです。

海外・国内の数機関に贈呈しました。内容は概略下記の通りです。

第1章 序論（系統計画・ルート選定・設計手順など）

第2章 系統電圧の決定

第3章 電線（電流容量・電力損失・適切な電線の選定など）

第4章 碍子（碍子連の設計・絶縁離隔・必要強度など）

第5章 支持物（設計手順・適用型の選定・設計手法など）

第6章 支持物基礎（標準的な基礎設計手法）

ご購入の方は、ご連絡ください。（事務局まで）ただし、英文で作成してあります。

～ リレーション あの人のひと ～



中島 浩（なかじま こう）さん 電気電子部門、電気 32 年卒

昭和 32 年電気卒の中島浩です。自宅が習志野ですので、通勤途上津田沼の駅からは外観は眺めていたのですが、本年 9 月に技術士会設立準備の関係で卒業以来はじめて津田沼キャンパスを訪れました。卒業時の環境からのあまりの変貌に今浦島の思いで啞然とするだけでした。

建物をはじめ研究設備、図書館、食堂など付属設備も母校の発展に驚愕の目を見張るだけでした。学校関係者と卒業生の皆様のご努力には頭が下がる思いです。

私は卒業後、2002 年に会社を退職するまでの 45 年間の約 70%の期間は海外勤務でした。そのためもあり、母校との縁は薄くなる一方でした。年金フリーターになりました現在、少しでも母校に恩返しができるかと考え、工大技術士会に入会させていただきました。

私の経験してまいりました業務分野は、電力セクターです。特に電力開発（発送変配電）と再生可能エネルギー関連の国際支援機関（世界銀行・アジア開発銀行・JICA・JBIC など）と現地政府機関によるプロジェクトの調査・計画・設計・監理です。認知症になる前に、学校と会員の皆様に少しでもお役に立つことがあれば、都合のつく限りお手伝いする所存です。

いよいよ千葉工大技術士会も活動を始める段階です。全会員の結束のもとに、楽しくまた有意義な会に成長することを期待し、且つ努力してまいります所存です。

— 次は、鈴木貞良さんをお願いします。



和気 輝幸（わき てるゆき）さん 建設部門、土木 46 年卒

私は、昭和 46 年土木工学科卒業です。当時は 1971 年ですから、34 年間で過ぎてしまいました。時間の過ぎるのは早いものです。ゼネコンの（株）藤田組に（現：（株）フジタ）に入社しました。主に東京都内の都市土木で、シールド工事・ケーソン工事・高架橋工事に 20 年間、以後本社で 15 年間で技術開発・指導をして参りました。

現在も技術企画部やトンネルとシールド部長をして在籍して居ります。従って専門と言いますと当然 トンネルになります。

このごろ、ずーと続けられたことは、何か幸せな部類の人間なのかなと思っています。

さて私の趣味は、鮎の友釣りです。真夏に河川の中で、10mの釣り竿を持って、三角形の麦わら帽子を被って釣っているやり方です。誰か同好の趣味を持っておられる方、来年ご一緒に行きませんか？

— 次は、町田文男さんをお願いします。

事 務 局 だ よ り

～ 千葉工業大学 トピックス ～

産官学融合センターが開所

産官学連携や知的財産管理を一元的に進める専門組織として、10月21日津田沼キャンパスの5号館6Fに新たに開設されました。開所にあたり本岡学長より、千葉工業大学が保有するシーズや知的財産をもとに産官学が交流し、TLO（技術移転）や共同研究、そして生涯学習など地域における社会貢献活動の拠点にしていく考えが示されました。さらに千葉工業大学技術士会については、産官学融合におけるコーディネーターとしての役割を期待する旨の挨拶がありました。

原常務理事に続いて溝辺会長が挨拶をし、千葉工業大学技術士会の設立の趣旨、今後の活動計画、産官学融合センターへの協力支援などについて話されました。

産官学融合センターでは、今まで否が応でも敷居が高かった大学の垣根を取り払い、企業の共同研究や技術相談をする「相談室」を設けております。コーヒーを飲みながら誰でも気楽に利用できますので、津田沼周辺へお出かけの際はお待ちしております。

～ 会員の動静 ～

新規入会者名簿（H17.9.17～H17.9.30）

藤永 弥（ふじなが わたる） 建設部門、土木61年卒 東亜道路工業(株)技術研究所勤務

千葉工業大学技術士会 個人情報保護ポリシー

千葉工業大学技術士会（以降、本会という）は、業務上使用する会員原簿などの個人情報情報は「個人情報の保護に関する法律」に基づき厳正に管理維持します。

個人情報の利用目的は、本会の活動に限定するとともに、管理に当っては漏えい等の防止のための安全管理措置ならびに本人からの求めによる個人情報の開示・訂正・利用停止を行うものとします。

個人情報を本会の活動以外の利用目的で使用する場合は、本人の承諾を得た上で会長の承認を受けることにします。

本会の役員、会員は個人情報保護の重要性を認識し、個人情報保護のための取り組みを継続的に実施し、改善を図ります。

～ 事務局からのお知らせ ～

人材バンク登録のお知らせとお願い

これから技術士会としての活動を本格化していく上で、会員の皆様がどのようなお手伝いをしていただけるか、人材バンク登録（仮称）の計画を進めています。

登録内容については今後具体化していきますが、現在考えている素案は、

○技術士一次試験、二次試験の学生、院生、卒業生に対する受験指導支援への参加意思と参加可能時間

○大学の産官学連携の取組みに対する支援参加意思と参加可能時間

○会員相互、あるいは技術士会として技術情報提供サービスを行うにあたり、参加意思と参加可能時間

などです。今年中には会員に対して案内をお送りできる予定です。

会費納入のお願い

私たちの技術士会は100名弱の会員によりスタートしました。今後会員の皆様のネットワークによる口コミを主力にした会員増強作戦を展開していきますが、当面の活動には皆様方の会費に頼るしか手立てがありません。勿論、会費をいただく以上、役員一同がそれに見合った、否それ以上の活動を活性化させていくつもりでおりますが、何卒、母校のため、技術士会のため、活動に支障がきたさないよう会費納入についてご理解をお願いします。

賛助会員加入へのご協力のお願い

賛助会員の会費は一口1万円です。会員の企業、団体または個人で趣旨に賛同いただけるようでしたら、賛助会員の加入についてのご協力をお願いします。

会報投稿へのお願い

会報は年二回（4月、10月）発行の予定です。事務局では会報の内容充実を図っていきますが、それには会員からの投稿による情報提供が欠かせません。ご協力よろしくをお願いします。

千葉工業大学技術士会 会員募集

会員の勧誘に個人情報保護の関連もあり四苦八苦しています。今まで同窓会会報『交友タイムズ』を通じ技術士会設立の案内を出しましたが新入会員は頭打ちの状況です。唯一、会員の広いネットワークに頼るしか手立てがありません。お知り合いに技術士、技術士補の方がおりましたら、事務局までご一報ください。ご協力よろしくをお願いします。



編集

千葉工業大学技術士会 会報第1号 平成17年10月25日発行

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号 千葉工業大学内

事務局 TEL; 090-8815-2504 E-Mail; pe39962minami@d3.dion.ne.jp (南澤)

TEL; 090-4677-3645 E-Mail; qq8s2cv9@cronos.ocn.ne.jp (黒澤)